



「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」 ～ 授業指導案 ～

1. はじめに	P2
2. 授業の概要	P2
(1) 狙い	
(2) 授業イメージ	
(3) 授業実施のための留意点	
3. 授業の進め方	P3
(1) 授業への教師の心構え	
(2) 「道徳の時間」向 ～ 指導計画、展開案	P4
(3) 「保健集会」向 ～ 指導計画、展開案	P7
(4) 授業の準備開催、副教材の使用・入手方法、 教師向研修、事務局・お問合せ先等	P10
4. 「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」 プロジェクトについて	P10

1. はじめに

本副教材（授業指導案、冊子、授業事例DVD）は、全国の中学校などにおいて、「がん・小児がんの正しい理解」といのちの大切さを実感する「いのちの授業」が広がることを願いお届けするものです。

現在、全国で約 16,000 名の子どもたちが小児がんと闘っていると言われていています。子どもたちにとって、「学校に行ける」「先生、友だちに会える」ことこそが、生きる力となります。そのためには、学校現場において、小児がんの正しい理解が不可欠です。しかし、現状、がん・小児がん教育は決して十分ではありません。

一方、いじめ、青少年犯罪、自殺など、いのちを粗末にするニュースが連日報道されています。学校現場においても、「いのちの授業」の重要性がますます高くなっています。

そこで、中学校において、小児がんを題材にして、いのちの大切さを学ぶための副教材を制作いたしました。

主に「道徳の時間」、さらには「保健体育」や「総合的な学習の時間」において、いのちについて考え、その大切さを実感できるものです。「保健集会」でも活用できるように、その展開例もあります。

制作に当たっては、教師・大学教授・医師・いのちの授業の実践者・小児がんの支援者関係者などが編集し、学校現場でも試行しております。授業などをされた方々より、「教師が通常授業の中で使いやすい実践的教材である」「小児がんの実話に基づくメッセージは生徒の心に届くものになっている」とのお声をいただいています。

ぜひ貴校にて、本副教材を活用して「いのちの授業」を実践していただきたくお願い申し上げます。
（本副教材は、高校、教育や医療関係の大学生、教職員研修などにも活用できます）

2. 授業の概要

(1) 狙い

- ・主に「道徳の時間」などを通じて、がんと小児がんの基本的な知識を知り、理解を深めさせたい。
- ・小児がんを発病した二人の少女の実話から、いのちについて考えさせることにより、周りの人たちの愛情の深さや支えの力強さ、いのちのつながりなどに気づかせ、その大切さと生きることの喜びについて実感させたい。

(2) 授業イメージ

- ・対象生徒 : 中学校 一年生～三年生
- ・実施時間 : 道徳の時間。さらには保健体育、総合的な学習の時間、保健集会など五十分授業一コマ
- ・教える人 : 教師
- ・副教材 :
 - ①「授業指導案」（本紙 A4×12 ページ）
 - ②「冊子」（A5 サイズ 16 ページ、カラー）授業時に、生徒が活用するワークシート。授業指導案に基づき、実話朗読、小児がんの知識、発問、ふりかえり、写真等が順番に編集されており、授業時のサブテキストとして活用下さい。

③「授業事例DVD」

中学校での授業事例の様子を、ダイジェスト版にまとめたものです。本授業の企画に当たり、進め方や生徒の反応などの参考にご活用ください。(撮影編集：杉本幸雄)

- ・道徳 = 愛知県小牧市立北里中学校 (担当講師 玉置 崇) 約 23 分
- ・道徳 = 愛知県小牧市立北里中学校 (担当講師 山田 貞二) 約 30 分
- ・保健集会 = 愛知県西尾市立東部中学校 (担当講師 杉本 春美) 約 17 分

(3) 授業実施のための留意点

- ・事前に「授業指導案」「冊子」「授業事例DVD」をご覧ください。また、必要に応じて生徒人数分の冊子を事務局よりお届けします。詳細は、本授業指導案 P10「3-(4)授業の準備開催、副教材の使用・入手方法、事務局・お問合せ先等」をご参照ください。
- ・小児がんの治療中や経験者の生徒（含兄弟姉妹）などが在校することもあります。本授業の実施に当り、その保護者の方のご意見やご要望について事前に伺うなどの配慮もお願いいたします。

3. 授業の進め方

(1) 授業への教師の構え

小児がんを発病した二人の少女の実話は、生徒にとってもインパクトがあるものです。一方は「死」を迎え、一方は「生」を与えられますから、生徒は、二人がまったく異なっているように思うことでしょう。

しかし、生徒が一人静かに考えたり、学級でそれぞれの思いを重ね合わせたりすることで、「生きていることの有難さ」「周りの人への感謝」「前向きに生きること」「大切な繋がるいのち」など、二人に共通しているいのちへの関わりに気づくことでしょう。

したがって、教師は生徒がこうしたことに気づくことをじっくり待つ姿勢で授業に臨んでいただきたいと思えます。意見が出なくても焦ることはありません。二人の少女のことを考えれば考えるほど、安易に考えを述べることはできません。深く考えている生徒の姿を見つめながら、表情発言をしていると前向きにとらえましょう。生徒の表情の変化などをとらえて、生徒を意図的に指名することもよいでしょう。

生徒の言葉を重ねながら、授業の狙いに徐々に近づいていけばよいと構え、教師も生徒とともにいのちについて考える機会としていただければ幸いです。

モデル授業例として、①「道徳の時間」向、及び②「保健集会」向の二つの指導計画・展開案を編集しております。貴校で「いのちの授業」を企画するに当たり、参考としてご活用ください。

(2)「道徳の時間」向 ～ 指導計画、展開案

■指導計画

- ・本授業の狙いは二つある。
一つはがんと小児がんの基礎的な知識を生徒に知らせることだが、いきなり「今日はがんと小児がんのことを勉強します」と言ったのでは、生徒の学ぼうとする気持ちを高めることは難しい面もある。そこで、「今日はケイコちゃんというある子どものお話を聞いてもらうことから始めますね」と、一般的な授業の流れとは違った入り方をさせていただきたい。
- ・がんや小児がんの知識については、冊子本編で提供している内容でポイントを絞る。
いのちの授業が命題であり、病気の知識を教えることをメインにしない。ただし、教師が一方的に知識を伝授するのではなく、「毎年、新たに何人の子どもが小児がんになっていると思いますか」など、生徒とやりとりをしながら、大切な知識を伝えていきたい。
なお、がんや小児がんの関連情報について、冊子後編⑦に参考資料として掲載している。必要に応じて読書案内をしていただきたい。また、「総合的な学習の時間」でさらに詳しく調べるといった学習を組むことは、学びを広げる意味で価値あることである。
- ・朗読（実話1、2）は生徒が状況を想像できるように、ゆっくり読む、抑揚をつけて読むなどの配慮をしていただきたい。朗読は目をつぶって聞くように指示してもよい。
- ・実話1（ケイコちゃん）の話を聞かせたあと、個々に心に感じたことを書かせる。全体発表はあえてしないことも一案である。
- ・実話2（マイさん）の話を聞かせたあと、実話1と同様に心に感じたことを書かせる。その後、「ケイコちゃんとマイさんの二人から、何を大切にしたいと思いましたか」と発問する。この授業において、最も重要な主発問と位置付ける。
- ・最も重要な主発問としたのは、実話を持っている力が大きく、生徒は様々なことを考えるからである。何を大切にしたいかという主発問によって、二人の生き様を今の自分と比べさせようという意図もある。実話1、2を聞いた後に個々が記録したことをもとにして、生徒はさらに多くのことを考えると想定できるからである。
- ・話し合わせることを通して、あるゴールに向かうことを目指す授業ではない。
狙いにあるように「自分のいのちについて考え、その大切さを実感しているような発言」「二人の生きざまから、自分のあり方を考えていようとする発言」などをそれぞれの生徒から引き出し、意見交流を通して、学級全体が「いのち」について考えを深め広げることが、二つ目の狙いである。そのために、個々の生徒の発言を大切に、テーマに関わる生徒発言をキーワード的に板書しておくといよい。また、つながりがある発言同士を矢印で結ぶなど、板書の構造化を図りたい。
- ・「いのちのメッセージ」の朗読は、学びや気づきを心の中に浸透させ、これからの自分を考えさせるための手立てである。「いのちのメッセージ」は教師が範読する。生徒には授業の最後に「これからの私」について記述させ、授業を終える。

■展開案

学習活動	指導上の留意点
<p>1 ケイコちゃんの病室での写真を見て感じたことを発表する。</p> <p>実話1（ケイコちゃん）を途中まで聞く。</p> <p>2 がん、小児がんについて知る。</p> <p>(1)ケイコちゃんはこのあとどうなったかを想像する。</p> <p>(2)がんになる人の人数（答：二人に一人）や、毎年新たに小児がんを発病する子どもは何人いるか（答：約二千五百名）想像する。</p> <p>(3)資料をもとに、小児がんはどのような病気かを知る。</p> <p>3 実話1（ケイコちゃん）の続きを聞き、心で感じたことをワークシート（冊子など）に書く。</p> <p>4 実話2（マイさん）の話を聞き、心で感じたことをワークシートに書く。</p> <p>5 （主発問）ケイコちゃんとマイさんの二人から、あなたは何を大切にしたいと思いましたか。</p> <p>・自分の考えを発表したり、他の考えを聞いたりして、いのちについて深く考えたり、考えを広げたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病室の写真から本時の話題の方向付けをする。 ○ 病室での写真についての感想交流は簡単に終える。 ○ 写真で導入してもよいが、「今日はケイコちゃんという子どもの話を聞いてもらいます」と話し、すぐに朗読を始めてもよい。 ○ 朗読を止め、「ケイコちゃんは小児がんだったのですね。このあと、ケイコちゃんはどうなったと思いますか」（深入りはしない）と尋ね、がんについての知識説明に自然に授業展開ができるようにする。 ○ がんが身近なものであることや、小児がんを発病する子どもの数を知らせ、小児がんやがんについての知識不足に気づかせたい。 ○ 資料を配付し、小児がんを中心に生徒に基本的な知識を伝える。 ○ 状況がよくわかるようにゆっくり朗読する。言葉を補足してもよい。 ○ 生徒が書いていることを机間指導で把握する。赤ペンをもって、記述のよさを褒めながらマルをつけるとよい。熱心に書いていることを褒める。 ○ 「今度は小児がんを克服したマイさんというがんになった人の話を聞いてもらいます」と言い、すぐに朗読に入る。 ○ 生徒が書いていることを机間指導で把握する。上記と同様に、赤ペンをもって記述したことを褒めておきたい。 ○ 最も重要な主発問である。ケイコちゃんは命を落とした、マイさんは生きているという違いがあるが、二人の生き様から、生徒自身の生き方を内省させようという主発問である。 ○ 二人とも与えられた命を全うしようと前向きに生きていること、周りに感謝していること、生きることについて真摯に向かっていることなどを話し合いにより気づかせ、自分自身もそのようにいのちを大切に生きていきたいという気持ちを語らせたい。





<p>6 いのちのメッセージを聞き、「これからの自分」を見つめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発言のキーワードを板書したい。 ○ 考えを一つに収斂させる必要はない。 ○ 良い話し合いができたことを大いに褒め、「いのちのメッセージ」をゆっくり読む。 ○ 心静かにして「これからの自分」を書く。 ○ 二人ほどの生徒に発表させ、本時のまとめとする。 ○ 終了後は、余韻を残すために、余分な話はしない。 ○ 後日、自分の振り返りとして再読することも生徒に進める。
---------------------------------------	--

(3)「保健集会」向 ～ 指導計画、展開案

■指導計画

- ・本集会の狙いは二つある。
一つは、小児がんの基礎的な知識を知り理解を深めること。もう一つは、いのちの大切さを実感することである。保健集会では、「自分ががんになったらどうするか」「身近な人ががんになったらどうするか」と、具体的な場面を想定する中で、意見交流を深め、狙いに迫りたい。
- ・小児がんの基礎的な知識については、冊子本編で提供している内容を扱い、次の四点がポイントとなる。
 - ① 「がん」は身近な病気であること。(大人は二人に一人が「がん」になる。)
 - ② 子どもにも「がん」があること。
 - ③ 小児がんの70～80%は、治る病気であること。
 - ④ 周りの人の正しい理解、サポートが大切であること。
- ・がんや小児がんの基礎的な知識については、クイズを通して生徒に考えさせる。
「○×クイズ」と称して、生徒をリラックスさせながら、意見が言いやすい雰囲気づくりをしたい。「大人の二人に一人が、がんになる」という問題では、×と回答した生徒に、「どれくらいだと思いますか」と聞き、教師が一方向的に知識を伝授するのではなく、生徒に考えさせながら知識を伝えていきたい。
- ・プレゼンテーション形式で行う。
朗読(実話1、2)は生徒が状況を想像できるように、ゆっくり読む、抑揚をつけて読むなどの配慮をするとともに、写真などを提示する。朗読の前に、実話1「ケイコちゃんは、病気とどのように向き合ったのか、どんな生き方をしたのか考えながら聞いてください。」、実話2「マイさんのまわりの人がどんな接し方をしたのか考えながら聞いてください。」と考える視点を与えてから朗読に入る。
- ・実話1、2を通して、「がんへの向き合い方」を考えさせる。
実話1(ケイコちゃん)から、自分ががんになった場合の「自分の生き方」、実話2(マイさん)から、まわりにがんの人がいる場合の「サポートの仕方」を考えさせたい。
- ・「いのちのメッセージ」の朗読は、余韻を持って保健集会を終えるための手立てである。
いのちのメッセージの朗読の際、詩を提示しBGMを流す。朗読の後、「これで保健集会を終わります」といった短い言葉で本集会を締めくくりたい。
- ・意見交流をして一つの答えを導きだすものではない。
狙いにあるように「いのちについて考え、その大切さを実感しているような発言」をそれぞれの生徒から引き出し、意見交流を通して、全体が「いのち」について考えを深め広げるようにしたい。
- ・保健集会では、保護者などの参加を呼びかけるのも、一つの方法である。
生徒だけでなく、担任、保護者にも、意見を求める場面を設定すると、意見交流がさらに深まる。保健集会を学校公開日などにあわせて行うのもよい。
- ・参考情報の紹介をする。
がんや小児がんの関連情報について、冊子後編に追加参考情報として掲載している。必要に応じて、授業終了後、各自で読むことなどを案内する。

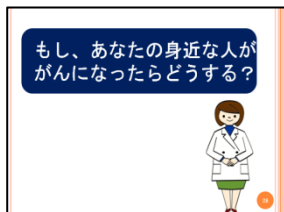
■展開案

学習活動	指導上の留意点
<p>1 本集会の目的を知る。</p> <div data-bbox="331 300 596 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">小児がんを知り、 いのちの大切さを学ぼう</p>  </div> <p>2 がん、小児がんについて知る。</p> <p>(1)〇×クイズを通してがんについて考える。</p> <p>(2)〇×クイズの解説を聞き、小児がんはどのような病気かを知る。</p> <div data-bbox="188 719 459 909" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【第1問】</p> <p style="text-align: center;">大人の 二人に一人は、がんになる</p>  </div> <div data-bbox="485 719 762 909" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">◆「がん」は身近な病気である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人は、二人に一人が「がん」になる ・予防方法、検診、治療なども進化している ・治療をして、いつもの生活や仕事に戻る人もたくさんいる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・問1 「大人の二人に一人ががんになる」 ○ ・問2 「小児がんとは、十五歳未満の子どもの“がん”のことである」 ○ ・問3 「小児がんは、70～80%治る病気である」 ○ ・問4 「小児がんになると、完治するまで登校できない」 ×治療しながらの登校あり <p>3 実話1 (ケイコちゃん) の話を聞き、自分が小児がんになった場合、どのような生き方をするか考える。</p> <p>(1)自分ががんになったらどうするか、想像する。</p> <p>(2)実話1 (ケイコちゃん) の話を聞く。</p> <p>(3)自分ががんになったらどうするか、考える。</p> <div data-bbox="188 1592 469 1798" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ケイコちゃんのお話 —「学校に行きたい」—</p>  </div> <div data-bbox="491 1592 762 1798" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">もし、自分ががんだったら どうする？</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 写真を見せ、「この女の子は、ケイコちゃん。ケイコちゃんは小児がんでした。今日は、ケイコちゃんとマイさんという二人の実話を紹介します。小児がんを知り、皆さんに自分のいのちを見つめてもらえるとうれしいです。」と話し、がんについての知識説明に入る。 ○ 「〇×クイズ」と称し、生徒をリラックスさせ、意見の言いやすい雰囲気をつくる。 ○ クイズを通して、がんや小児がんについての知識不足に気づかせたい。 ○ キーワードをプレゼン形式で提示し、がんや小児がんについて基本的な知識を伝える。 ○ 問1「大人の二人に一人が、がんになる」では、×と回答した生徒に「どれくらいだと思いますか?」と聞き、予想させる。 ○ 問2では、小児がんの原因は現在わかっていないこと、大人のがんは生活習慣と関係があることを説明する。 ○ 問3では、「がん=死」ではないことに気づかせたい。 ○ 問4では、周りの人の正しい理解とサポートの大切さをおさえる。 ○ 朗読の前に「みなさんが、もしがんになったらどうしますか?」と聞き想像させる。(深入りはしない) ○ 「ケイコちゃんは、病気とどのように向き合ったのか、考えながら聞いてください。」と朗読の前に視点を与える。 ○ 朗読では、状況がよくわかるように、写真などを提示する。 ○ 朗読後、再度、がんとの向き合い方について考えさせる。 ○ 「脱毛、免疫力や体力の低下など、治療の副作用があっても、学校へ行けるか」という補助発問を用意し、前向きに生きる覚悟について気づかせる。 ○ 意見が出ない場合、ケイコちゃんやケイコちゃんの家族についての思いを発表させる。 ○ 生徒の意見から、命には限りがあること、与えられたいのちを全うしようと前向きに生きることのすばらしさについておさえる。

4 実話2 (マイさん) の話を聞き、周りにがんの人がいた場合、どんなサポートをするか考える。

(1)実話2 (マイさん) の話を聞く。

(2)自分の周りにマイさんのように、がんになった人がいたら、どうするか考える。



5 (主発問) ケイコちゃんとマイさんの二人から、あなたは何を大切にしたいと思いましたか。

・自分の考えを発表したり、他の考えを聞いたりして、いのちについて深く考えたり、考えを広げたりする。



6 いのちのメッセージを聞く。



いのちのメッセージ

限りがある「いのち」
愛されている「いのち」
支えられている「いのち」
かけがえのない「いのち」
つながっている「いのち」
自分だけのものではない「いのち」

大切な自分の「いのち」
大切な友だちの「いのち」
あたりまえにある「いのち」は「きせき」なんだよ
むだな「いのち」なんてひとつもないんだよ
だから「生きる」んだ

○ 「先ほどは、自分ががんになったらということで考えてもらいましたが、今度は自分の身近な人ががんになったらという視点で考えていきましょう。今度は、マイさんの話を聞いてもらいます。マイさんのまわりの人がどんな接し方をしたのか考えながら聞いてください。」と視点を与えてから朗読に入る。

○ マイさんの話を聞いて感じたことを発表させ、周りのサポートの大切さについて意見を引き出したい。意見が出ないときは、「マイさんの周りの人はどんなサポートをしましたか？」と発問する。

○ 生徒の意見から、周りの人の正しい理解、サポートが大切であることについておさえる。

○ ケイコちゃんはいのちを落とした、マイさんは生きていくという違いがあるが、二人の生き様から、生徒自身の生き方を内省させようという主発問である。

○ 二人とも与えられたいのちを全うしようと前向きに生きていくこと、周りに感謝していることなどを気づかせ、自分自身もそのようにいのちを大切に生きていきたいという気持ちを語らせたい。

○ 生徒だけでなく、教師や保護者にも発表の機会を与えるとよい。

○ 良い意見を発表できたことを大いに褒め、BGMを流しながら「いのちのメッセージ」をゆっくり読む。

○ 終了後は余韻を残すために余分な話はしない。

○ 集会の後、小児がんやがんについての確認と自分の振り返りとして、冊子を読むことを勧める。

(4) 授業の準備開催、副教材の使用・入手方法、事務局・お問合せ等

■授業の準備開催（担当教師）

- Step1 = 授業指導案や授業事例DVDを参考に授業計画を検討。
- Step2 = 必要に応じて冊子、ワークシートなどを準備。
- Step3 = 授業を実施。
- Step4 = 授業のふりかえり、他のクラスや学年でも展開。

■副教材の使用・入手方法

- ・学校など教育及び医療関係者の方は、副教材（授業指導案、冊子、授業事例DVD）をフリーに使用できます。事務局ホームページ（特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会）よりダウンロードしてご活用ください。それ以外の方が使用する場合は、事前に事務局にご連絡ください。
なお、営利目的での使用は全て禁止とします。
- ・冊子現品をご要望の方は、次の通りお申込みください。無料（2016.4時点）でお届けいたします。
 - Step1 = 必要数、宛先、授業予定日等を記載して「冊子申込書」（A4.1枚）を事務局にFAX またはメールください。「冊子申込書」は事務局ホームページより入手ください。
 - Step2 = 冊子をお届けします。冊子申込受付後、4週間程度必要（余裕をもってご計画ください）。

■教師向研修

- ・本教材を使用する「授業づくり」について、副教材の制作メンバーが教職員研修会などに伺い、模擬授業や講演をすることも可能です。詳しくは事務局にお問い合わせください。
（日程等で伺えないこともあります）
例：模擬授業方式 = 制作メンバーの教師経験者
講演方式 = いのちの教育&がん教育全般
鈴木中人「実践！いのちの授業～心に届く授業づくりのポイント」

■事務局・お問合せ先

- ・事務局＝特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-7-2 電話・FAX 052-581-8686
- ・公式サイト＝<http://hm7.aitai.ne.jp/~inochi-b/> 「いのちの授業 鈴木中人」
サイト内のページ名：「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクト
- ・お問合せ＝メールにてお願いします。メール inochi-b@hm7.aitai.ne.jp

4. 「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクトについて

■プロジェクトの思い

今、約16000人の子どもたちが小児がんと闘っています。闘病中、退院後も、周りの人の正しい理解が必要です。小児がんの子どもたちにとって、学校は「生きる力」となる存在です。一方で、学校では、いじめや自殺など、いのちを粗末にするニュースが連日報道されています。

学校において、「がん・小児がんへの正しい理解」と「いのちの授業」が進むことを願い、副教材（授業指導案、冊子、授業事例DVD）を制作してお届けします。

■副教材の制作メンバー（五十音順）

- 押谷 由夫 昭和女子大学大学院人間教育学 教授
杉本 春美 愛知県西尾市立一色中部小学校 前養護教諭
杉本 幸雄 大同大学情報学部 教授
○鈴木 中人 特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会 代表
玉置 崇 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
堀部 敬三 独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター長・小児科医長
松井 秀文 特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
山田 貞二 愛知県一宮市立大和中学校 前校長

■ 副教材の引用&参考資料

- ・単行本「6歳のお嫁さん～亡き娘から託されたいのちの授業」（実業之日本社）
- ・絵本「6さいのおよめさん」（文屋、サンクチュアリ出版）
- ・ドキュメンタリー映画「四つの空 いのちにありがとう」（いのちをバトンタッチする会）
- ・「がんについて考えよう」（名古屋市健康福祉局健康増進課）

■ 副教材の発行団体（プロジェクトの共同企画団体）

◇特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-12-32-F
電話 03-3952-2640 メール npo@goldribbon.jp
<http://goldribbon.jp>

<活動内容>

- ①小児がん経験者のQOL向上のための支援
 - ・交通費等補助金制度
 - ・小児がん経験者の奨学金制度（返金不要型）
 - ・小児病棟の学習室などの整備
 - ・サマーキャンプ
- ②小児がんの治癒率向上のための研究助成
- ③小児がんの理解促進



◇特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南 2-7-2
電話 052-581-8686 メール inochi-b@hm7.aitai.ne.jp
<http://hm7.aitai.ne.jp/~inochi-b/>

<活動内容>

- ①「いのちの授業」の開催
 - ・小中学校、高校・大学、いじめ対策、PTA、人権大会
 - ・ゴールドリボンいのちの授業（全国公募方式）
 - ・いのちの講座（教師、医療介護専門職育成）
- ②購読誌「いのちびと」、講演録、DVDなどの発行
- ③映画「四つの空 いのちにありがとう」の上映
- ④いのちの教育の啓発





「小児がんを知り いのちの大切さを 学校で学ぼう」プロジェクト
～ 授業指導案 ～

特定非営利活動法人ゴールドリボン・ネットワーク
特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会
発行 2016年3月